

我が国の重要な農作物に被害を与えるウイロイド病の侵入リスク管理措置の確立

研究期間	平成 23 年度～平成 25 年度
課題番号	2309
研究実施機関	(独)農業・食品産業技術総合研究機構(中央農業総合研究センター、花き研究所)
研究概要	<p>我が国において未発生であったウイロイド病害のトマト退緑萎縮ウイロイド(TCDVd)が 2006 年広島県内において、また、ポテトスピンドルチューバーウイロイド(PSTVd)が 2008 年福島県内において確認されました。これらの新規ウイロイド病害は、我が国の重要な農作物であるナス科植物を中心として様々な植物に感染し、海外から輸入された農作物の種苗類を介して国内に侵入したと疑われています。</p> <p>そこで、輸入農作物種苗を介した新規ウイロイド病害の侵入防止に資するよう、ウイロイド病害について、感染リスクが高い種苗リスト及び科学的に裏付けされた検疫措置を確立するための研究を実施しました。</p>
研究成果の概要	<p>侵入のおそれがあるウイロイド 4 種について、トマト、馬鈴薯、野菜、花き類にウイロイドを接種して感染評価を行い、それぞれの被害程度や感染の有無を明らかにしました。</p> <p>また、植物におけるウイロイドの汚染部位を明らかにするとともに、ウイロイド 4 種の遺伝子検査法(RT-PCR)による検定方法を開発しました。</p> <p>これらの成果を踏まえて「侵入警戒を要するポスピウイロイド対策ハンドブック」を策定しました。</p>

(注) 研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載